

令和4年度 菊川市立加茂小学校 学校経営構想

1 学校経営の基本方針

- (1) 『基本理念は人間尊重の教育』 人間尊重の精神を基盤に「どの子もかけがえのない存在」の共通認識に立って**一人ひとりを大切に**する教育を実践する。子どもの「**人権**」を大切にすることが全ての基本。(子ども同士も含む。)
- (2) 『生きる力の育成』 全教育活動を通じて確かな学力、豊かな心、健やかな体などの「**生きる力(=自治力)**」の育成を目指す。
- (3) 『地域との共育・共生』 菊西学舎の設立理念を生かした**家庭や地域社会との連携**を通して、地域とつながり信頼される「開かれた学校づくり」を推進する。
- (4) 『学びのユニバーサルデザイン』の視点に立ち、誰もが学ぶ喜びを感じられる**加茂小ならではの特色ある教育・特色ある学校づくり**を推進する。

2 教育課題

- (1) **主体的に、粘り強く**考え、**判断**し、学び合いや協働で問題を解決できる子
- (2) 仲間とともに学校生活の向上や行事・諸活動に**主体的に**参加しともに高め合う子
- (3) 優しい心を持ち、**相手の気持ちを考えた言動**ができる子
- (4) 心身の健康を自己管理でき、**目標に向かって粘り強く**励むことができる子
- (5) 地域を知り、地域に誇りを持ち、地域のために何ができるかを考えることができる子

3 学校教育目標と重点目標

やさしく かしこく つよい子

(平成30年度より 5年目)

やさしく…**思いやりの心**、社会性、公共心、礼儀、規則の遵守、

コミュニケーション力、他者への理解・受容

かしこく…確かな学力、課題解決のための**思考力、判断力、表現力** 知恵

メタ認知能力

つよい子…たくましい心身、**意欲・意志、粘り強さ、向上心**、やり遂げる力

それぞれの言葉に込めた思いを実現するべく、全ての教育活動をこの教育目標につなげ、子どもたちに育成すべき資質・能力を明確にした指導・支援を行う。

この学校教育目標の3項目は、決して並列のものではないと考える。

「**やさしく**」が**第一**に挙げられているのは、子どもたちの優しさが教室にあふれ、どの子も居心地のよさを感じることができる、安心して生活できることが、すべての教育活動の基盤であってほしいという願いがあるからである。それを土台として、「もっと学びたい。」「もっと知りたい。」「もっとできるようになりたい。」「もっとがんばりたい。」という意欲と態度が生まれてくると考える。

「人権」を大切にしながら日々の教育活動に加え、特別な教科「道徳」のさらなる充実を始め、人間関係プログラムの活用などを通して、子どもたちの心を育てる教育の充実を図り、学びの充実と学校生活の向上の土台を作る。

重点目標(令和4年度)

『自分から一歩！ みんなで大きな一歩！』

(令和2年度より 3年目)

自分から一歩！

- 主体的に・意欲（特に仲間S T） ○自ら考え・向上心・粘り強く（特に努力S T）
- 意志決定・自律（特に協力S T）
- 前進・価値判断・視野を広げて（特に挑戦S T）
- 成長・夢に向かって・感謝を伝える（特に達成・感謝S T）

みんなで大きな一歩！

- 出会いと相互理解・協力（特に仲間S T） ○学び合い・改善・進歩（特に努力S T）
- 高め合い・協働・自浄（特に協力S T） ○切磋琢磨・前進（特に挑戦S T）
- 未来に向かって・たたえ合い（特に達成・感謝S T）

今まで加茂小学校の子どもたちは、主体的・対話的な深い学びを目指した授業や特別活動を中心とした自治的な活動を取り入れることによって、学習や様々な活動に、自らの思いをもって一生懸命取り組む姿が確実に高まってきた。

その積み重ねてきた力をさらに高めたいと思うとともに、改善されつつあるが加茂小の子どもたちの課題として残っている主体性を高めたいという教師の願いがある。その思いを込めたのが「自分から一歩」である。学習課題に、社会・自然事象に、生活集団の課題に、自ら関心を持ち、自ら解決のための方法を考え、自ら追究し、自ら行動する。その最初の一歩を力強く踏み出せる意欲と向上心を高めていきたい。

そして、学習の向上も学校生活の向上も、一人一人の高い意欲に支えられた参画意識と協働によって実現できる。学校評価の中で「みんなで何かすることは楽しい」の強肯定が多い、加茂小の子どもたちの強みをさらに伸ばし広げるべく設定した目標が「みんなで大きな一歩」である。

新学習指導要領の中で重視される「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、単なる協力・協働だけでなく、前重点目標の「きたえ合う」に込めた「切磋琢磨」の意識も、この「みんなで大きな一歩！」という言葉に込めている。

主体的で協働的な学習や自治的な活動の充実にも努め、より一層重点的に取り組み、その成果を実感させることによって、子どもたちの心の中に「みんなで力を合わせれば、難しいと思っていたこともできる。」「みんなで力を合わせれば、現状を変えられる。」「みんなで力を合わせればもっと良い学校になる。」「みんなで力を出し合って、みんなで成長する。」という目標と自信を育てたいと考える。そんな願いを「大きな一歩」という言葉に込めた。

4 学校経営目標

(1) 主体的に学び合う学習集団をつくる。

- ア 「聴く」ことを出発点とした、聴く・話すの「加茂っ子スタイル」を、系統的に指導する。
- イ 教師の話を抑制し、言語活動等のアウトプットさせる活動で子ども同士が学び合う機会を多くする。
- ウ 学習形態を目的に合わせて工夫する。(対話を促す「コの字の隊形」、ペア、小集団での学習)特に誰もが参加しやすいペアや小集団での学習を有効活用する。
- エ 一人一端末等の ICT 機器を効果的に活用し、深い学び合いに生かす。
- オ 学習規律(加茂っ子の学習)を確立し、学びに向かう姿勢・態度を整える。

(2) 付けたい力、求められる資質能力に直結する授業をつくる。

- ア 子どもたちを深い学びに導く単元構想を持って授業に臨む。
- イ 付けたい力、求められる資質・能力を明確にし目標に迫る学習課題を設定する。
- ウ 子どもの問いから生み出され、主体的な学びにつながる学習課題を設定する。
- エ 定着、評価を意図したまとめと振り返りを行う。(各時間 10 分あるいは単元構想の中で)
- オ 探究・問題解決の過程で、より深い思考力、判断力、表現力を育む。
- カ 授業のタイムマネジメントを明確にし、学びのリズムを大切にする。

(3) 自主的、自治的な集団をつくる。

- ア 特別活動を充実させ、自分たちで学級・学校をさらに良くしようとする子どもたちを育てる。
- イ 当番活動・係活動を意図を持って組織し、自治的な集団をつくる。
- ウ キャリア教育に通じる係活動、委員会活動、児童会活動を通して、責任感・自主性・創意を育てる。

(4) 互いを認め、高め合う人間関係をつくる。

- ア 互いのよさを見いだし、認め合う場をつくる。
- イ 人間関係プログラムを効果的に活用し子ども同士のコミュニケーションを深める。
- ウ 学級活動、児童会活動で、意図的な場面や立場を設定しリーダーを育成するとともに、フォロアースhipの在り方も学ばせる機会をつくる。
- エ ペア活動、通学区児童会などで、異学年の人間関係をつくる。

(5) 安全・安心な、落ち着いた環境をつくる。

- ア 校舎内外の環境を整え、「すべての子どもたちにとって安全か」という視点を常に持って、日常的に安全点検を行う。
- イ 施設の保守管理を徹底するとともに、備品の有効活用をする。
- ウ 防災・防犯の指導と訓練を計画的に行い、命を守る教育を充実させる。

(6) 地域、保護者からの信頼をつくる。

- ア 学校だより、HP、一斉メール等を有効活用し、学校からの情報発信に努める。
- イ 地域、家庭(保護者)との相互の協力関係を大切にする。

ウ 各教科領域との関連づけを明確にし、地域の教育的素材を生かした探究的な生活科・総合的な学習の時間を展開する。

エ 菊西学舎の連携を深め、小中一貫性のある指導と地域との連携を生かした教育活動を展開する。

(7) 健康でたくましい心身をつくる。

ア 「早寝早起き朝ご飯」の指導を徹底し、主体的な規則正しい生活習慣を身に付けさせる。

イ 感染症予防対策としての「学校の新しい生活様式」を習慣化し、自らと周囲の健康まで配慮する知識と実践を身につけさせる。

ウ 体育の授業、体育的行事への取り組みを通して体力、運動能力の向上に努める。

エ 生活学習運動面において、自ら目標を立て粘り強くやり遂げる体験を大切にする。

5 数値目標 (菊川市共通数値目標)

※児童の各項目における強い肯定(あてはまる)のみの回答率

①学校が楽しい 72 %

②みんなで何かするのは楽しい 85 %

③授業に主体的に取り組んでいる 62 % ※全項目 前年比+1 %

④授業がよく分かる 57 %

⑤学校に信頼することができる先生がいる 84 %

⑥地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある 52 % (5・6年生のみ)

⑦学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う 57 %

⑧ほぼ毎日 ICT を使う 75 %

(令和3年度結果) ① 71.1 % ② 84.4 % ③ 61.4 % ④ 56.2 % ⑤ 83.1 % ⑥ 51.3 %

⑦ 56.6 % ⑧ 74.8 %

6 学校経営の重点と具体策

(1) 生徒指導を中心とした指導体制

個性の伸長と社会性の育成をめざした生徒指導を展開する。

ア 生徒指導主任→3指導部(えがおづくり部・学びづくり部・活気づくり部)の全校指導体制

イ 「人権」を尊重し、児童理解に基づいた指導、認め価値づける指導、意欲と自主性を育む指導

ウ 問題行動・不登校・不適応への組織的な対応と教育相談機能の充実

エ 早期発見、早期解決をめざす先手必勝の生徒指導

オ 「これから」を重視する未来志向の生徒指導

カ 菊西学舎共通指導項目の実践を核とした、望ましい生活習慣、規律意識の定着

(2) 学びづくり部 ～確かな学力を育成する「加茂小の授業」づくり～

- ア 聴く・話すの「加茂っ子スタイル」の系統的な指導【聴くことが全ての基本】
 - ・聴き方・話し方のタワー（段階的な指導）、対話的な学びによる深い学びのある授業づくり
 - ・アウトプットを核とした主体的に学び合う学習集団の育成
- イ 「加茂っ子の授業スタイル」押さえる→仕掛ける→確かめる展開の確立
- ウ 一人一端末を最大限に生かす授業での活用と家庭学習との連携の推進
- エ 求められる資質・能力を明確にし、その獲得と活用を考慮し、各教科・領域との関連・系統性を意識したカリキュラムマネジメント
- オ 生活科・総合的な学習の時間の充実改善と各教科・領域との関連・系統性を意識し、地域に広がるカリキュラムマネジメント
- カ 学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業改善・学級・教室経営
- キ 読書習慣の確立を目指す学校図書館の利活用と継続的な読書指導

(3) えがおづくり部 ～豊かな心とたくましい心身の育成～

- ア 教職員の人権意識・人権感覚を高める研修
- イ 生活の基盤をつくる 『早寝 早起き 朝ご飯』
「加茂っ子の生活」の徹底（進んで元気なあいさつ、朝の黙想（7:59）、もくもく掃除、生活の約束等）
- ウ 菊西学舎共通指導項目「ネット、ゲーム、スマホ利用の手引き」をもとに、家庭と連携した利用指導の徹底
- エ 特別な教科「道徳」の改善・充実 考え議論する道徳の授業への転換と評価の充実
- オ 自分の健康・成長に関心を持ち、感染症対策を含めた健康の自己管理できる能力の向上
- カ 健康・安全教育の推進
（生活リズムの確立、食育、保健・安全指導、体力づくり、防犯・防災訓練等）
- キ 安全・安心な教育環境整備（学校安全計画にある指導事項の確実な実践）

(4) 活気づくり部 ～主体的に取り組み、集団を高める自治力の育成～

- ア 学校・学級の課題解決に向けた全校共通の取り組み（あいさつ、読書週間、忘れ物）
- イ キャリア教育を意識し、責任を果たす当番活動と個性・創意工夫を生かした係活動
- ウ 自治力を育てる「学級づくり」と「加茂小の特別活動」
（学級活動、委員会・児童会活動）問題を自分たちで解決 生活を楽しく豊かに
児童会活動・委員会活動・ペア活動 自分たちで学校改善（自治力）
- エ 学級活動の充実 話し合い→実践→反省→成果の確認 話し合う価値を実感し、活動の質の向上
- オ 体育の時間・体育的な行事への取り組みを通しての、体力の向上及び目標に向かって粘り強く努力することの大切さの実感

(5) 学年・学級経営 ～学校運営組織の中心となるもの～

- ア 目指す学級の姿を共有できる学級目標と、みんなで努力し実現できる実践目標の決定
- イ 午前中5時間授業の日課を有効に機能させるために、教師も子どもたちも時間を意識した行動
- ウ 学級集団づくり、学習集団づくり、授業づくりの具体を学年・学年部で共有し、共通実践
- エ 子どもと子ども、教師と子どもが信頼感で結ばれた学級(信頼関係づくり)
- オ 特別支援教育の視点を生かした学級経営(誰もが居心地のよい学級、視覚化され分かりやすい約束、心が落ち着く環境の整備)
明確で、学校・学年の共通性を持たせた教室経営ヴィジョン
(「前面スッキリ」と「生き生き」、子どもの「所属感」いっぱい)
- カ 環境が整備され、学びのルールが確立した、学びの場にふさわしい空気の流れる学級
- キ 互いに認め合い、明るく安心して生活できる学級づくり
(「いじめ・問題行動」ゼロを実現する先手必勝の生徒指導)
- ク 子どものよさや学び自治的な活動の様子が見える掲示のある学級(可視化)
- ケ 自分はこの学級に必要な存在であると感じる学級づくり(所属感・自己肯定感を育てる学級づくり)
- コ 子どもたちの自主性、創意工夫が生き、もう一段階上の、自浄作用を備えた自治力を高める学級経営

(6) 家庭・地域社会と連携を密にして、信頼される開かれた学校づくり

- ア 連絡帳や電話、家庭訪問等による家庭への積極的な連絡(特に新型コロナウイルス対応で保護者が来校して子どもの様子を見たり、職員と話し合ったりする機会が少ないときは不安になりやすいため、効果的)
- イ 菊西学舎の連携の理念のもと、小中連携・小小連携の推進と、家庭と連携した共通指導項目の実践
- ウ 計画的な地域人材の活用(各教科、各領域、総合、読み聞かせ、クラブ活動等)
- エ 学校行事や地域行事等における学校と地域との相互連携と発信
(子ども教室、加茂地区文化祭、地域防災訓練、HPアップ、学校・学年便り等)
- オ 学校評価の充実と積極的な情報公開
(組織マネジメントを生かした教育活動の実践と説明責任、学校参観会、学校・学年便り、学校評議員制度の活用等)
- カ 登下校時の安全確保と情報発信・受信(地域ボランティア・保護者との連携)
- キ 「家庭学習の手引き」の全家庭共通実践による、主体的に学ぶ子の育成